

ヒマラヤ産種については、その構造や内穎の長さとの関係は不明であった。今回、走査型電子顕微鏡により 7 種のネパール産種について検討を行ったところ、これまでの分類と一致する結果が得られた。さらに小穂、葉舌などの形態について比較を行い、ネパール産種の分類について検討を行った。検索表に示すように、ネパールのヌカボ属は Hara et al. (1978) が行ったように 12 種 1 変種に分類される。各種について記載を行うが、本編ではそのうち 7 種を扱った。

○高等植物分布資料 (112) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (112)

○サツマハギ *Lespedeza satsumensis* Nakai 北緯 32°, 東経 128° 21' に位置する男女群島 (長崎県) は日本列島の生物地理に関連して興味ある小群島である。その植物相と植生は竹内 (1936), 外山ら (1968), 植松ら (1973), 伊藤・中西 (1984) などによって報告されている。

1984 年 10 月に日本野生生物研究センターの斉藤秀生氏が女島の高岳 (海拔約 280 m) でサツマハギ (*Lespedeza satsumensis* Nakai) を採集した。本種はすでに竹内が本群島から記録していたが、疑問視されていた。国内の主要標本庫にもその証拠となる標本は蔵されていない。

女島では、サツマハギの基準産地である薩摩磯間山のような、凝灰岩質の基岩の露出した痩せた稜線部に生育していたとのことで、採集された個体は形のうえで基準標本とよく合致するものであった。ただ、茎と花序軸の毛は伏毛型で、葉の表面の毛は薩摩半島の個体に較べて少ない。本誌 58 巻で述べたように (Akiyama & Ohba 1983), サツマハギは本州中部以西、九州北西部、朝鮮半島に分布するピッチェウヤマハギ (*Lespedeza kiusiana* Nakai) と形態的には大きな違いは見い出されない。従って、男女群島でのサツマハギの再発見は、今後の両種の分類学的考察に大きな意義をもつと思われる。

同群島で昆虫相調査のかたわら、植物資料を収集し提供くださった、斉藤秀生氏にお礼申し上げます。
(東京大学 総合研究資料館 大場秀章 Hideaki OHBA)

□平田正一：宮崎県植物誌 377pp. 1984. 宮崎日日新聞社, 宮崎, ¥8000. 宮崎県植物研究の長老 平田氏の長年にわたる調査の集大成である。目録は紙数の関係から産地記録は簡略化されている。その他に文献目録, 植物方言, 地名索引などが付けくわえられている。
(金井弘夫)